

協議事項 3

「小野市地域公共交通計画」の評価について

令和３年度に策定しました「小野市地域公共交通計画」について、計画に基づいた事業に係る達成状況の評価を毎年行うものであり、「小野市地域公共交通会議」において協議させていただくものです。

また、本会議で審議した評価内容を元に、計画の評価結果を国土交通省へ提出いたします。

1 評価の目的

小野市地域公共交通計画に定められた事業計画及び目標数値の達成状況の把握と状況に応じた事業計画等の見直しを行うため

2 評価対象年度

令和７年度

3 評価内容

①施策・事業に対する評価

②数値目標に対する評価

小野市 地域公共交通計画

<評価・検証>

令和８年６月

小野市地域公共交通会議

小野市地域公共交通計画の評価・検証

目次

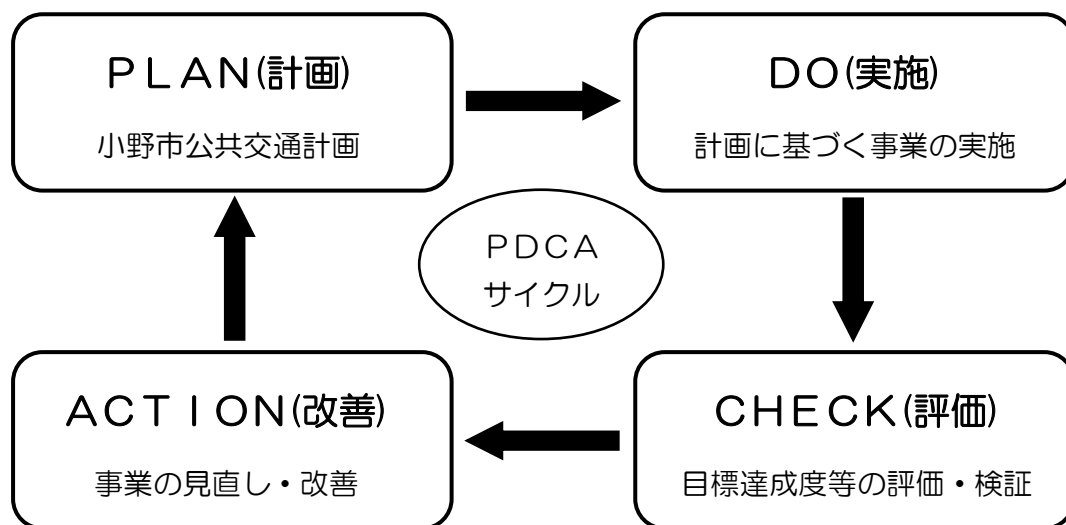
1. 計画の達成状況の評価について
2. 目標達成のための施策・事業の進捗状況
3. 数値目標の達成状況
4. 計画全体の評価・検証

1. 計画の達成状況の評価について

事業の実施にあたっては、社会環境や市民のニーズの変化にあわせて事業内容を適宜改善することが必要です。

このため、定期的に計画の実施状況や効果を検証し、必要に応じて見直しを行うPDCA サイクルを機能させながら推進します。

効果検証にあたっては、交通事業者や住民代表のほか関係機関で組織する「小野市地域公共交通会議」の参画を得て行います。



2. 基本方針達成のための施策・事業の進捗状況

基本方針1：誰もが利用しやすい市民の暮らしを支える持続可能な公共交通体系の構築

施策名	日常生活を支えるバスネットワークの構築 (増便・フィーダー系統の運行・スクール便の運行)																		
■新たなスクールバスルートの運行開始																			
・教育委員会との連携により、令和8年4月1日から来住小学校への通学送迎ルートである「西脇スクールバスルート」を新たに運行開始。																			
■鉄道への乗継利便性向上																			
・JR 加古川線及び神戸電鉄において、コミュニティバスと鉄道間の乗り継ぎがスムーズになるようコミュニティバス運行ダイヤを調整																			
施策名	小型車両の導入によるコミュニティバス路線の拡充																		
■車両更新時期にあわせた小型車両導入の検討																			
・後年におけるらん♡らんバス車両の更新にあわせた小型車両の導入について、既存ルートの乗降客数や市民ニーズを踏まえた検討を開始																			
施策名	医療拠点へのアクセス性向上																		
■令和3年度の増車・増便による利用状況の分析及び改善案の検討																			
・利用状況を注視し、今後のダイヤ改正に備えた再編案を検討																			
医療拠点（北播磨 MC、小野病院、緑駿病院）における利用者数の推移																			
<table><tr><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td></tr><tr><td>17,868 人/年</td><td>13,450 人/年</td><td>12,696 人/年</td><td>14,088 人/年</td></tr><tr><td>R5</td><td>R6</td><td>R7</td><td></td></tr><tr><td>15,952 人/年</td><td>17,013 人/年</td><td>14,557 人/年</td><td></td></tr></table>				R1	R2	R3	R4	17,868 人/年	13,450 人/年	12,696 人/年	14,088 人/年	R5	R6	R7		15,952 人/年	17,013 人/年	14,557 人/年	
R1	R2	R3	R4																
17,868 人/年	13,450 人/年	12,696 人/年	14,088 人/年																
R5	R6	R7																	
15,952 人/年	17,013 人/年	14,557 人/年																	
■デマンドタクシー事業の運行継続																			
・らんらんバスの空白時間を補完し、市内要所へのアクセス性を向上																			
施策名	公共交通と商業施設との連携強化																		
■粟生線サポーターズくらぶ加盟店等における利用者優待情報の周知																			
・ワーキンググループ委員等へ、サポーターズくらぶチラシによる優待情報を周知																			

基本方針２：にぎわいあるまちを創出する公共交通ネットワークの構築

施策名	コミュニティバスへの IC カードシステム導入の検討																		
■ ICカード等キャッシュレス決済のニーズ把握																			
・運賃箱の更新に併せ、主要 IC カードが利用できるキャッシュレス決済システムを導入（ICOCA、Suica、PiTaPa、NicoPa ほか 11 種類）																			
＜参考＞																			
利用者区分別の利用率（R7 年度）																			
有料区分率 43.7%（うち、現金 24.9%、定期券 18.8%）																			
無料区分率 56.3%																			
施策名	バスロケーションシステムの導入促進																		
■バスロケーションシステムの導入促進																			
・ワーキンググループ委員をはじめとする利用者に対し意見を聴取																			
施策名	観光施設へのアクセスの向上																		
■令和 3 年度の増車・増便による利用状況の分析及び改善案の検討 再掲																			
・利用状況を注視し、今後のダイヤ改正に備えた再編案を検討																			
■観光施設の最寄り停留所※ ¹ におけるコミュニティバス利用者数の推移																			
<table><tr><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td></tr><tr><td>10,590 人/年</td><td>7,346 人/年</td><td>7,580 人/年</td><td>7,712 人/年</td></tr><tr><td>R5</td><td>R6</td><td>R7</td><td></td></tr><tr><td>8,841 人/年</td><td>7,730 人/年</td><td>6,866 人/年</td><td></td></tr></table>				R1	R2	R3	R4	10,590 人/年	7,346 人/年	7,580 人/年	7,712 人/年	R5	R6	R7		8,841 人/年	7,730 人/年	6,866 人/年	
R1	R2	R3	R4																
10,590 人/年	7,346 人/年	7,580 人/年	7,712 人/年																
R5	R6	R7																	
8,841 人/年	7,730 人/年	6,866 人/年																	
※ ¹ ゆぴか、浄土寺、ひまわりの丘、鴨池、広渡廃寺、鍬溪温泉前																			
■デマンドタクシー事業の運行継続 再掲																			
・デマンドタクシー事業の開始により、観光施設へのアクセス性を向上																			
施策名	予約制デマンドバスの活用とPR																		
■デマンドタクシー事業の運行継続 再掲																			
・小型デマンドバスの廃止に伴うデマンドタクシー事業の運行開始により、らんらんバスの運行を効率的に補完																			
・利用件数の低さを踏まえ、大型デマンドバスの運行を終了（R8 年 3 月末）																			

基本方針3：各公共交通の適切な役割分担による連携強化

施策名	2次交通としてのコミュニティバスの充実 (鉄道駅・幹線バス停留所までのアクセス向上)																		
■令和3年度の増車・増便による利用状況の分析及び改善案の検討 再掲 ・利用状況を注視し、今後のダイヤ改正に備えた再編案を検討																			
■ひょうご小野産業団地への運行を検討 ・ひょうご小野産業団地の本格稼働にあわせた増車の必要性及び市内工業団地のアクセス性向上に向けた新ルート案の検討																			
施策名	複数交通モード間の乗継利便性の向上																		
■鉄道への乗継利便性向上 再掲 ・神戸電鉄樫山駅において、コミュニティバスと鉄道間の乗り継ぎがスムーズになるようバス運行ダイヤを調整																			
施策名	主要施設前広場整備の公共交通乗り入れ施設（ロータリー）及びパーク＆ライド駐車場の設置																		
■パーク＆ライド駐車場の周知 ・JR市場駅及び神戸電鉄小野駅のP&R駐車場を市ホームページで周知																			
■神戸電鉄沿線駐車場へのキャッシュレス決済導入にあわせ、PiTaPaポイントアップキャンペーンを実施し、神戸電鉄のP&R利用を促進																			
■パーク＆ライド駐車場の利用促進 ・市場駅前月極駐車場利用者数の推移																			
<table><tr><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td></tr><tr><td>22台</td><td>15台</td><td>20台</td><td>24台</td></tr><tr><td>R5</td><td>R6</td><td>R7</td><td></td></tr><tr><td>22台</td><td>21台</td><td>18台</td><td></td></tr></table>				R1	R2	R3	R4	22台	15台	20台	24台	R5	R6	R7		22台	21台	18台	
R1	R2	R3	R4																
22台	15台	20台	24台																
R5	R6	R7																	
22台	21台	18台																	
・小野駅前P＆R駐車場利用者数の推移																			
<table><tr><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td></tr><tr><td>2,469台/年</td><td>1,781台/年</td><td>2,598台/年</td><td>2,611台/年</td></tr><tr><td>R5</td><td>R6</td><td>R7</td><td></td></tr><tr><td>2,321台/年</td><td>2,824台/年</td><td>3,095台/年</td><td></td></tr></table>				R1	R2	R3	R4	2,469台/年	1,781台/年	2,598台/年	2,611台/年	R5	R6	R7		2,321台/年	2,824台/年	3,095台/年	
R1	R2	R3	R4																
2,469台/年	1,781台/年	2,598台/年	2,611台/年																
R5	R6	R7																	
2,321台/年	2,824台/年	3,095台/年																	

施策名	交通結節点のバリアフリー化の推進																			
■バリアフリー化の必要性及び優先順位の検討																				
・市内交通機関及び施設における、バリアフリー化の必要性及び優先順位を検討																				
施策名	各地域のコミュニティセンターの交通拠点整備																			
■市内コミュニティセンターの最寄り停留所※ ¹ におけるコミュニティバス利用者数の推移																				
<table><tr><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td></tr><tr><td>7,624 人/年</td><td>5,549 人/年</td><td>8,612 人/年</td><td>12,207 人/年</td></tr><tr><td>R5</td><td>R6</td><td>R7</td><td></td></tr><tr><td>14,352 人/年</td><td>15,917 人/年</td><td>13,303 人/年</td><td></td></tr></table>					R1	R2	R3	R4	7,624 人/年	5,549 人/年	8,612 人/年	12,207 人/年	R5	R6	R7		14,352 人/年	15,917 人/年	13,303 人/年	
R1	R2	R3	R4																	
7,624 人/年	5,549 人/年	8,612 人/年	12,207 人/年																	
R5	R6	R7																		
14,352 人/年	15,917 人/年	13,303 人/年																		
※ ¹ 小野消防署前、河合小学校前、コミセンきすみの、コミセンいちば、コミセンおおべ、コミセン下東条																				
施策名	鉄道駅周辺におけるにぎわいの創出																			
■地域住民によるにぎわい創出																				
・花植えや清掃活動、観光資源の整備など、地域住民による駅及び駅周辺を活用した取組を実施。																				

基本方針4：自動車から公共交通への転換を図る交通体系の実現

施策名	鉄道の再生に向けた検討及び事業の実施
■「垂井南区画」の分譲を継続 ・令和3年8月より宅地分譲を開始した垂井南区画の分譲を継続 ■鉄道沿線におけるイベント等の情報発信 ・JR加古川線・神戸電鉄粟生線・北条鉄道利用促進協議会による「沿線ガイド」の発行	
施策名	公共交通全般に係るワーキンググループ会議の開催
■「ワーキンググループ会議」を開催 ・市内6地区において、各町から選出されたワーキンググループ委員と意見交換や協議を実施（R7.11） 【R7年度会議における主な意見】 ・らん♡らんバスは高齢者の移動手段として根付いている。 ・車両をダウンサイジングし、小回りの利くルートに変更してはどうか。 ・運賃の無料区分について、元気な高齢者も増えてきているため、年齢要件を引き上げてよいのでは（現在は65歳以上が無料区分）。 ・運行本数が少なく、ダイヤに行動を合わせることが困難。 ・らん♡らんタクシーの「ドアツードア」移動がとても便利である。 ・医療機関への移動については一律料金にするなどの工夫が必要。 ・市外の医療機関にも移動できるようにしてほしい。 ・利用料金を更に低減させてほしい。 ・オンデマンド形式の交通手段の導入について検討いただきたい。 ・依然残る交通空白について、限りなく少なくなるよう努力いただきたい。	
施策名	出前講座の開設、バス出発式などの開催によるMM事業の実施
■ワーキンググループ委員に対する公共交通の利用啓発 ・市内6地区において、各町から選出されたワーキンググループ委員に対し公共交通の利用啓発を実施（R7.11） ■デマンドタクシー事業の周知にあわせた市内公共交通の利用啓発 ・デマンドタクシー事業の利用対象者となる高齢者をはじめ、各種委員に対し、当該事業の説明にあわせ市内公共交通の紹介と利用を推進	

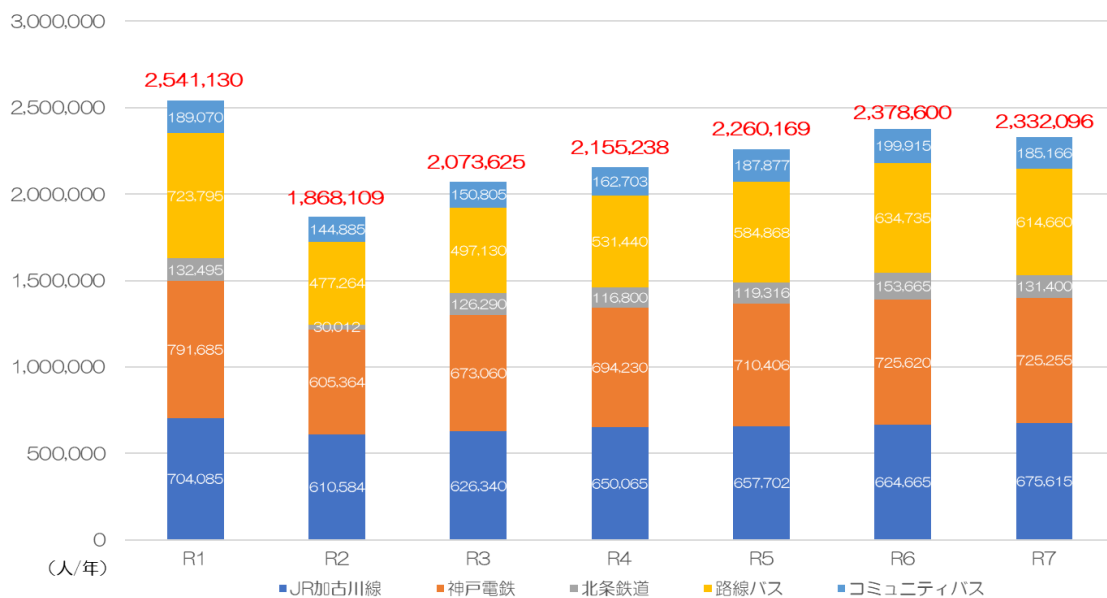
3. 数値目標の達成状況

計画目標1：公共交通利用者数

1. 数値目標

小野市の公共交通利用者数（鉄道・路線バス・コミュニティバス利用者数）

現状値	実績値					目標値
R 1	R3	R4	R5	R6	R7	
254 万人	207 万人	215 万人	226 万人	237 万人	233 万人	257 万人



2. 考察

小野市における公共交通利用者数は、コロナ禍により大きく落ち込んだものの、各交通機関における感染防止対策をはじめとする取組により、令和3年度以降は毎年回復基調にあった。令和6年度がピークとなり、令和7年度については、前年度比2.0%の減少に転じ、計画期間（R3～R7年度）を通した目標値達成は出来なかった。

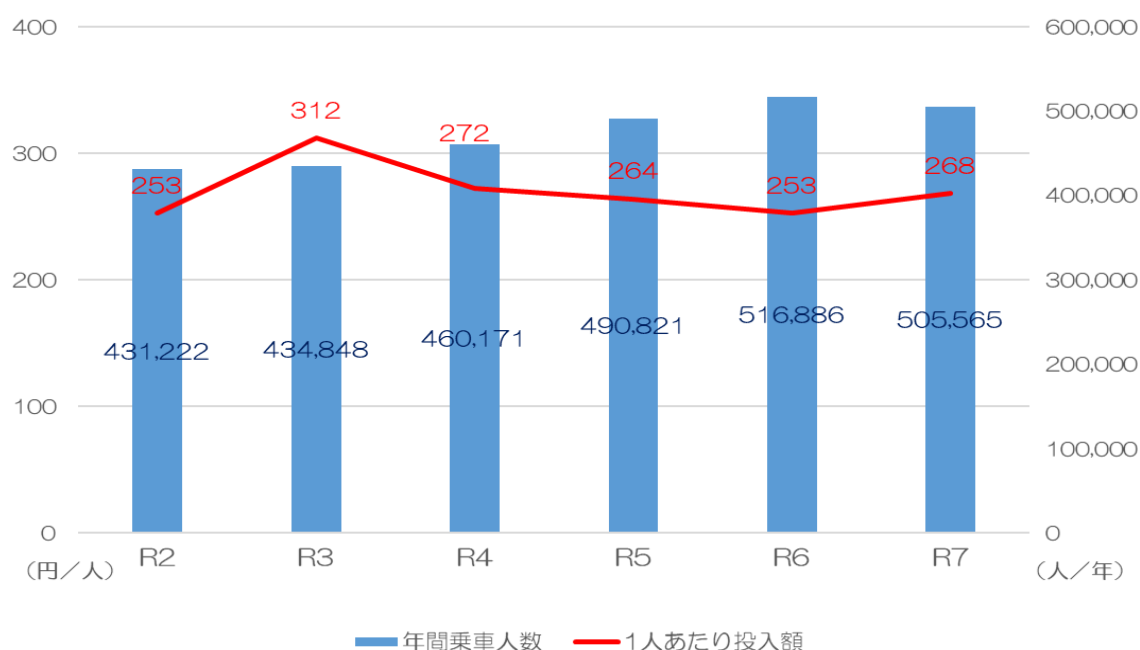
今後については、モビリティマネジメントの強化などにより利用者数の増加を目指す。しかし、少子高齢化の進展や沿線人口の減少等の社会課題を加味すると、利用者数を大幅に増加させることは困難であると考えている。

計画目標2：公共交通への公的資金投入額

1. 数値目標

コミュニティバス（定時定路線）事業及び路線バスへの利用者1人あたりの公的資金投入額

現状値	実績値					目標値
R2	R3	R4	R5	R6	R7	
253円/人・年	312円/人・年	272円/人・年	264円/人・年	253円/人・年	268円/人・年	253円/人・年



2. 考察

令和7年度は、コミュニティバスにおいては、イオン小野店の一時休業の影響により、65歳以上の高齢者の利用が激減し、利用者数が対前年度比で7.4%減少した。

路線バスにおいては、神姫バス㈱による生産性向上の取組により、利用者数が対前年度比で1.1%上昇する結果となった。

利用者数の減少とともに、人件費や燃油費の高騰による運行経費が増加しており、1人あたりの公費投入額は、令和6年度と比較して15円増加し、計画期間（R3～R7年度）を通した目標値達成は出来なかった。

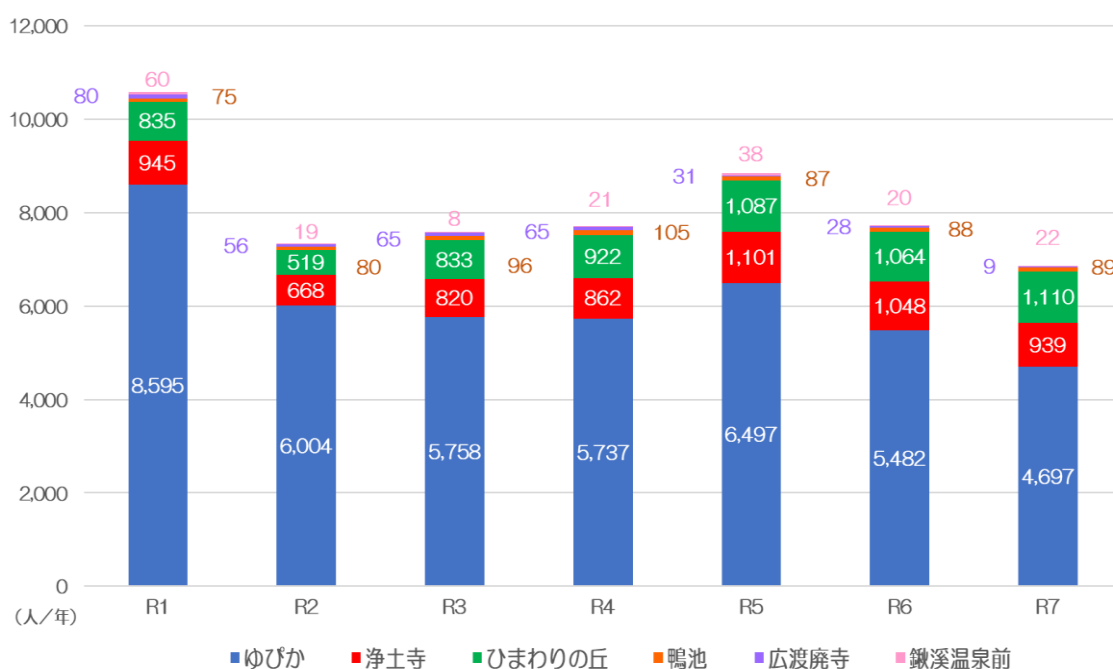
今後は、コミュニティバスにおいて、運賃改定による収支率の改善を検討し、路線バスとともに利便性及び生産性向上の取組も実施のうえ、利用者数の増加を図っていく必要があると考える。

計画目標3：主要観光施設の最寄りバス停利用者数

1. 数値目標

主要観光施設の最寄りバス停利用者数

現状値	実績値					目標値
R 1	R3	R4	R5	R6	R7	
10,590 人/年	7,580 人/年	7,712 人/年	8,841 人/年	7,730 人/年	6,866 人/年	15,500 人/年



2. 考察

主要観光施設の最寄りバス停利用者数は、コロナ禍前(令和元年度)と比較すると、約7割の水準まで落ち込み、コロナ禍前の水準にも回復せず、計画期間(R3～R7年度)を通して目標値達成は出来なかった。「白雲谷温泉ゆぴか」の料金改定の影響が大きく、また、令和7年度は温暖な日々が続いたこともあり、同施設における年間入浴者数も減少となりました。

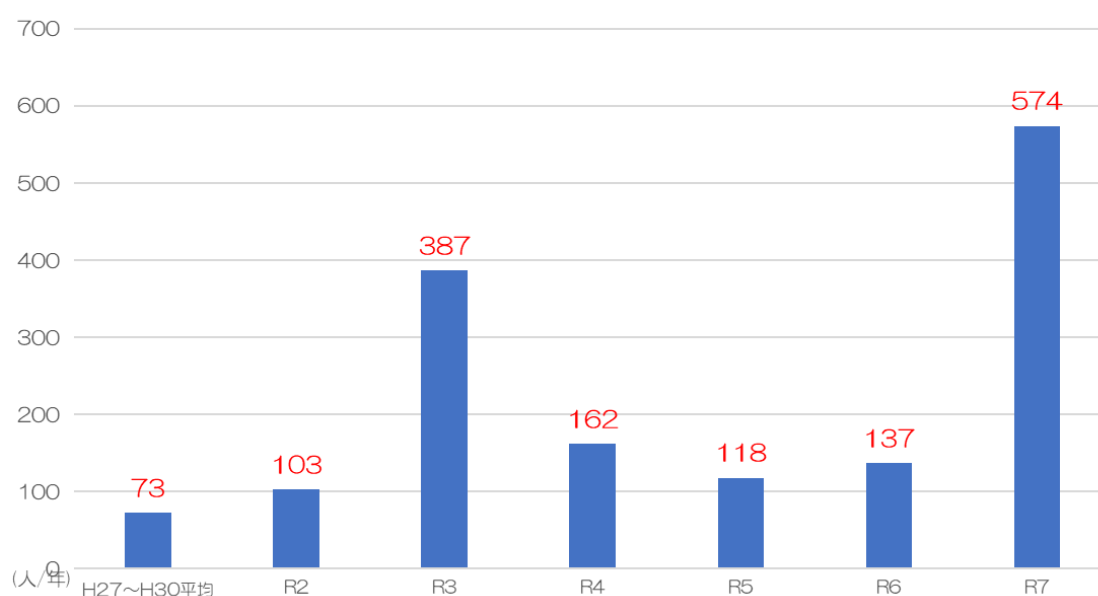
今後は、ダイヤ改正による鉄道や路線バスなど幹線系統との接続性向上等により、市外からの観光客のコミュニティバス利用を促すことで利用者の増加を図りたい。

計画目標4：モビリティマネジメント参加人数

1. 数値目標

モビリティマネジメント参加人数

現状値	実績値					目標値
H27～H30 平均	R3	R4	R5	R6	R7	
73 人/年	387 人/年	162 人/年	118 人/年	137 人/年	574 人/年	173 人/年



2. 考察

令和7年度は、「デマンドタクシー事業」を軸とした市内公共交通の面的な利用について、ワーキンググループ委員をはじめ利用者・関係者に説明するとともに、市内高等学校へ通学する学生を対象に公共交通の利用に関するアンケート調査を実施し、公共交通に対する意識醸成を行った。また、「西脇スクールバスルート」の運行開始に際し、来住小学校の対象児童17人に対して、らん♡らんバスの乗り方教室を行った。

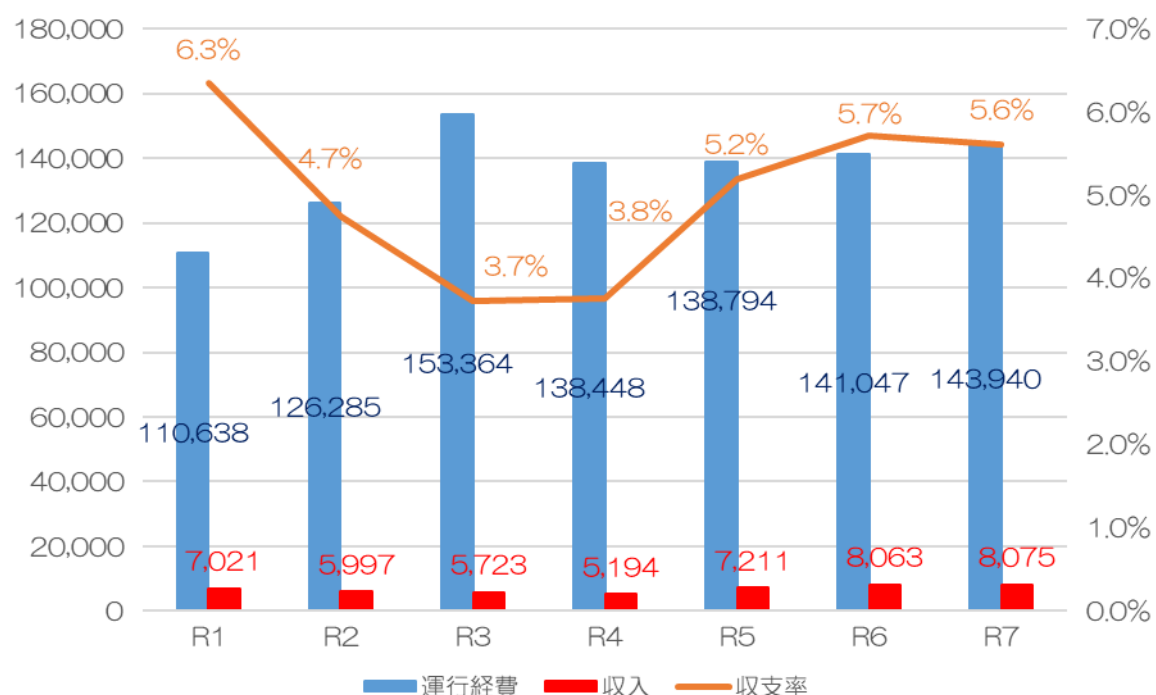
計画期間（R3～R7年度）を通した年平均は276人/年となり目標値を上回る結果となった。しかしながら、未達成となった年度もあるため、今後においても多様な層を対象としたモビリティ・マネジメントを継続的に実施していくことで、公共交通の積極的な利用を促すことを目指す。

計画目標5：コミュニティバスの収支率

1. 数値目標

コミュニティバス（定時定路線）事業の収支率

現状値	実績値					目標値
R 1	R3	R4	R5	R6	R7	
6%	4%	4%	5%	6%	6%	6%



2. 考察

コロナ禍においては利用者数の減少に併せ運賃収入も減収となり、令和3年度には収支率が3.7%まで落ち込んだが、コロナ禍以降の移動需要の回復に併せ、市民ニーズに沿ったルート・ダイヤ改正を実施しており、令和7年度は5.6%となった。収支率は改善傾向にあったが、計画期間（R3～R7年度）を通して目標値達成は出来なかった。

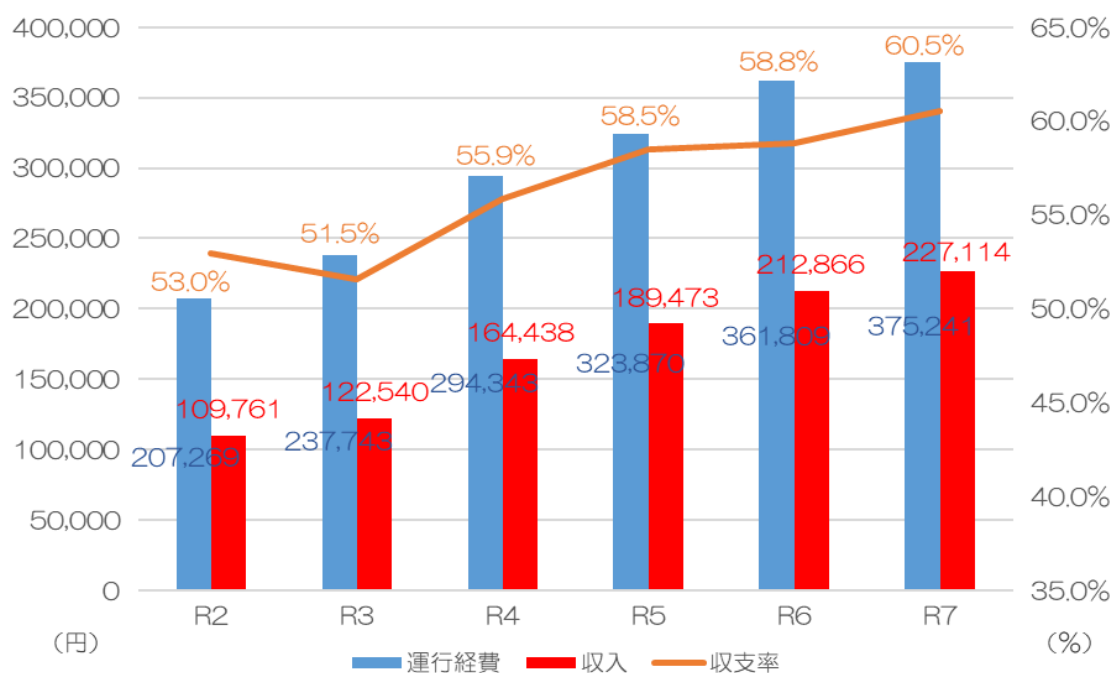
今後においても、ニーズに沿ったコミュニティバスの運営を行うことで利用者数の増加を図っていくが、一方で人件費や燃料費をはじめとする運行経費が高騰しており、収支率改善のためには、運賃改定も視野に検討していく必要があると考えている。

計画目標 6：補助路線バスの収支率

1. 数値目標

補助路線バスの収支率

現状値	実績値					目標値
R2	R3	R4	R5	R6	R7	
53%	52%	56%	59%	59%	61%	53%



2. 考察

コロナ禍においては利用者数の減少に併せ運賃収入も減収となり、令和 3 年度には収支率が 51.5% まで落ち込んだが、神姫バス㈱による生産性向上の取組（通学需要の取り込み、利用データ分析による運行計画の見直し など）により、令和 7 年には 60.5% まで回復した。

計画期間（R3～R7 年度）の目標値を上回る結果となり、今後においても、神姫バス㈱により生産性向上の取組を継続されるほか、小野市においてもワーキンググループ会議などでモビリティマネジメントを実施することで、収支率の更なる改善を目指す。

小野市地域公共交通計画

(概要版)

1 計画策定の目的

人口減少や少子高齢化等による公共交通サービスの需要の縮小や運転手不足の深刻化等により、地域における公共交通の維持・確保が難しくなっている中、小野市では平成27年12月に策定した「小野市地域公共交通網形成計画」(計画期間：H27.12～R3.3)に基づき、持続可能な公共交通ネットワークの形成を推進してきました。

このような中、令和3年度以降における小野市のまちづくりの将来像実現に向けた公共交通の在り方を示すとともに、公共交通を取り巻く環境を改善し、持続可能な地域旅客運送サービスの提供を確保するため、令和2年11月の「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」の改正を踏まえた新たな計画として「小野市地域公共交通計画」を策定しました。

2 計画区域

小野市全域

3 計画対象

鉄道、路線バス、コミュニティバス、デマンドバス、タクシー、その他の輸送資源

4 計画対象期間

令和3年6月～令和8年3月

5 交通を取り巻く現状と課題

小野市の現状からみた課題

- ・人口減少・高齢化の進展への交通面からの対応
- ・産業、経済発展を支える広域市町間の連携強化
- ・市中心部の公共施設や商業施設へのアクセス性の強化
- ・整備が進む医療拠点、産業拠点へのアクセス性の強化
- ・観光活性化に向けた観光拠点間の回遊性の確保
- ・市外への移動を支える鉄道と他の移動手段との連携強化
- ・短距離でも自動車が利用される自動車依存型交通体系からの脱却

社会情勢からみた課題

- ・バスやタクシーの運転手など、公共交通の担い手不足への対応
- ・鉄道駅周辺や、鉄道やバス車両のバリアフリー化の推進
- ・GTFSやMaaSなどの新技術への対応
- ・新型コロナウイルス感染症対応

6 計画の方向性

- 1 少子高齢化に対応した誰もが利用しやすい持続可能な交通体系の構築
- 2 市内外からの移動を支える交通体系の構築
- 3 多様な交通手段が適切に連携した交通体系の構築
- 4 自動車に頼らなくても移動しやすい交通体系の構築

7 基本理念

本計画の上位計画である「小野市都市計画マスタープラン」等のまちづくりの実現や、前項で示した本市の公共交通の目指す方向性を踏まえ、本計画の基本理念は以下のとおり設定します。

みんなでつくる「つながりあるまち」
～生活と活力を支える公共交通ネットワークの構築～

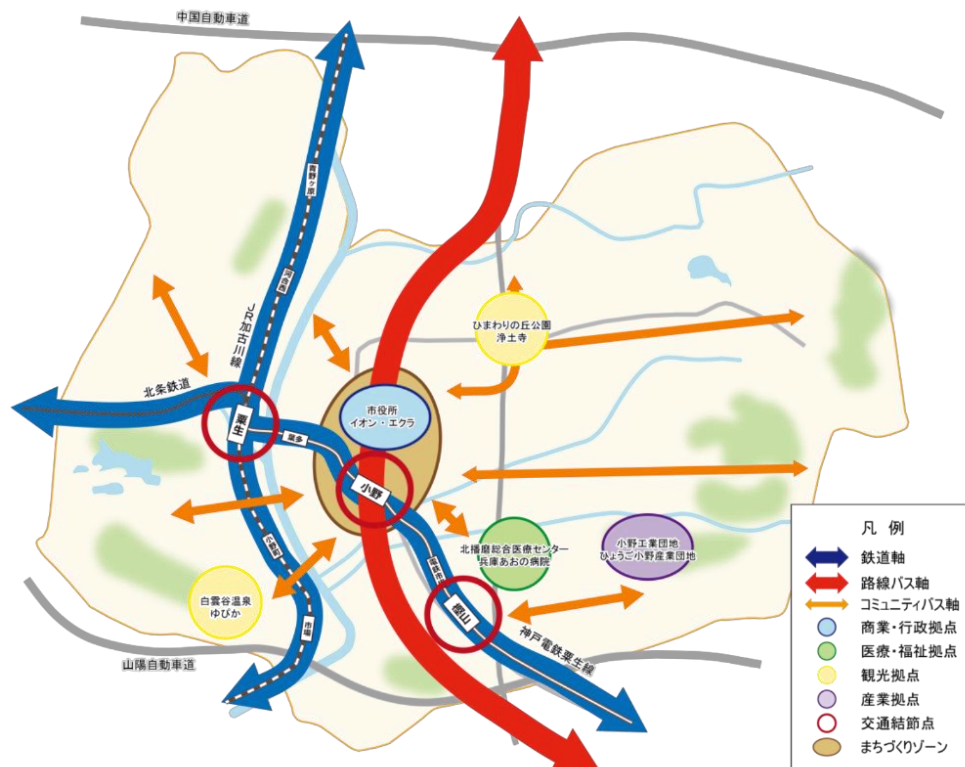
8 基本方針

- 1 誰もが利用しやすい市民の暮らしを支える持続可能な公共交通体系の構築
日常的な買い物や通院先となる商業施設や医療施設に公共交通を利用して移動できる交通体系の構築を目指します。
- 2 にぎわいあるまちを創出する公共交通ネットワークの構築
市内外の通勤通学や、市外からの医療施設や観光施設への来訪など、市内外の交流を支援する公共交通ネットワークの構築を目指します。
- 3 各公共交通の適切な役割分担による連携強化
多様な交通手段の乗継ポイントとして、地域のまちづくりと一体的な交通拠点の整備を目指します。
- 4 自動車から公共交通への転換を図る交通体系の実現
市民、交通事業者、行政がそれぞれの役割を担うことで、クルマに頼りすぎない持続可能な公共交通体系の構築を目指します。

市中心部の公共施設、商業施設が集積する商業・行政拠点と広域交通拠点となっている神戸電鉄小野駅を含む「まちづくりゾーン」は、都市機能を集積するとともに、広域交通と地域交通の乗継拠点としてのゾーン形成を図ります。

また、既存の鉄道、バス路線網は、広域交通ネットワークとして市内と市外の移動を支援し、コミュニティバス「らん♡らんバス」は、主に市域内の移動手段としての役割を担うとともに、商業・行政拠点、医療・福祉拠点、産業拠点、交通結節点、観光拠点間を連絡します。

< 目指すべき公共交通ネットワーク >



< 公共交通ネットワークにおける役割 >

交通モード	公共交通ネットワークにおける役割			備 考
	幹線交通	支線交通	地域内交通	
鉄道	●			主に市外との大規模な移動に対応
路線バス	●			地域公共交通確保維持改善事業による幹線系統補助を活用しつつ、維持・強化を図る。
コミュニティバス		●	●	地域公共交通確保維持改善事業による地域内フィーダー系統補助を活用しつつ、維持・強化を図る。
タクシー		●	●	定時定路線では対応できないニーズに対応
デマンドバス		●	●	
その他の移動手段（病院送迎バスなど）		●		コミュニティバスとのダイヤ調整・連携による利便性向上 など

10 施策体系

基本理念	基本方針	施策	実施主体									施策スケジュール				
			小野市	兵庫県	国小野市地域公共交通会議	事業者 バス	事業者 鉄道	事業者 タクシー	住民	商業施設	観光協会	2021 令和 3年度	2022 令和 4年度	2023 令和 5年度	2024 令和 6年度	2025 令和 7年度
みんなでつくるつながりのあるまち生活と活力を支える公共交通ネットワークの構築	誰もが利用しやすい市民の暮らしを支える持続可能な公共交通体系の構築	日常生活を支えるバスネットワークの構築（増便、フィーダー系統の運行・スクール便の運行）	●	●	●	●										
		小型車両の導入によるコミュニティバス路線の拡充	●		●	●			●							
		医療拠点へのアクセス性向上	●	●		●										
		公共交通と商業施設との連携強化	●							●						
		市内公共交通の一律運賃制度の検討	●			●	●	●								
	にぎわいあるまちを創出する公共交通ネットワークの構築	コミュニティバスへのＩＣカードシステムの導入の検討	●			●										
		バスロケーションシステムの導入促進	●			●										
		観光施設へのアクセスの向上	●			●			●		●					
		予約制デマンドバスの活用とＰＲ	●			●		●								
		コミュニティバス車両（内装・外装の改装）の検討	●			●										
	各公共交通の適切な役割分担による連携強化	２次交通としてのコミュニティバスの充実（鉄道駅・幹線バス停留所までのアクセス向上）	●			●	●	●								
		複数交通モード間の乗継利便性の向上	●			●	●	●								
		主要施設前広場整備の公共交通乗り入れ施設（ロータリー）及びパーク＆ライド駐車場の設置	●													
		交通結節点のバリアフリー化の推進	●				●									
		各地域のコミュニティセンターの交通拠点整備	●			●			●							
		鉄道駅周辺におけるにぎわいの創出	●				●		●							
	自動車から公共交通への転換を図る交通体系の実現	鉄道の再生に向けた検討及び事業の実施	●	●	●		●									
		バス停設置とバス停環境（ベンチ・バスベイ）の改善	●			●			●							
		公共交通全般に係るワーキンググループ会議の開催	●		●				●							
		出前講座の開設、バス出発式などの開催によるＭＭ事業の実施	●			●										
		公共交通アテンダントの配置	●						●							

令和7年度 小野市コミュニティバス「らん♡らんバス」運行実績

【らん♡らんバス運行概要】

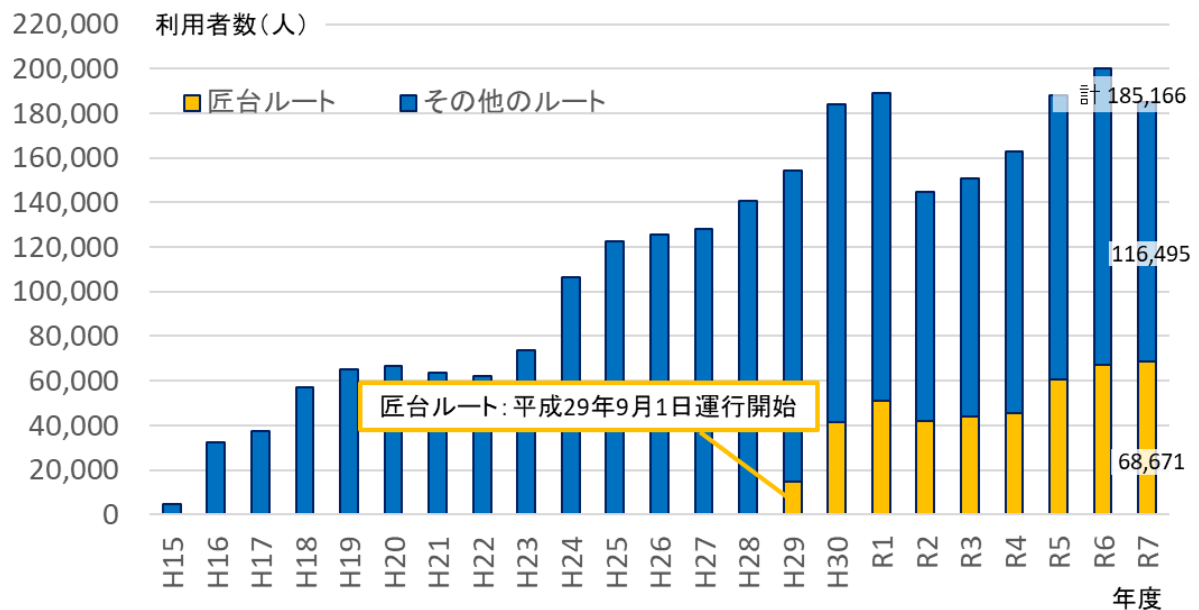
車 両…9台 内訳:小型ノンステップバス7台、中型ノンステップバス1台、ワゴンタイプ車1台

運行路線…市内11ルート

料 金…1回100円 ※65歳以上、小学生以下、障がい者は無料
1箇月定期券4,000円（有効期間：毎月1日～末日）

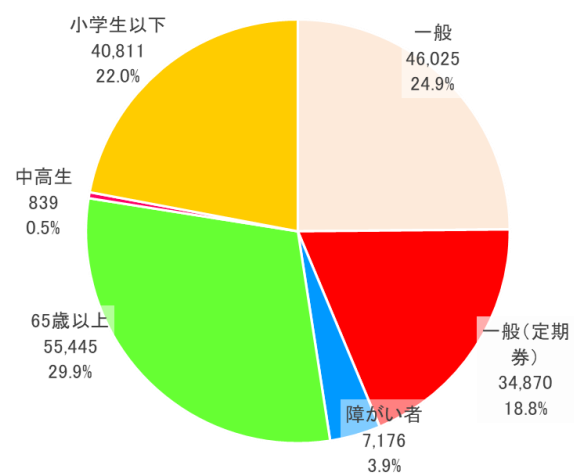
バス停数…市内175箇所（R2.5.7改正以降のバス停数）

【らん♡らんバス年間利用者の推移】

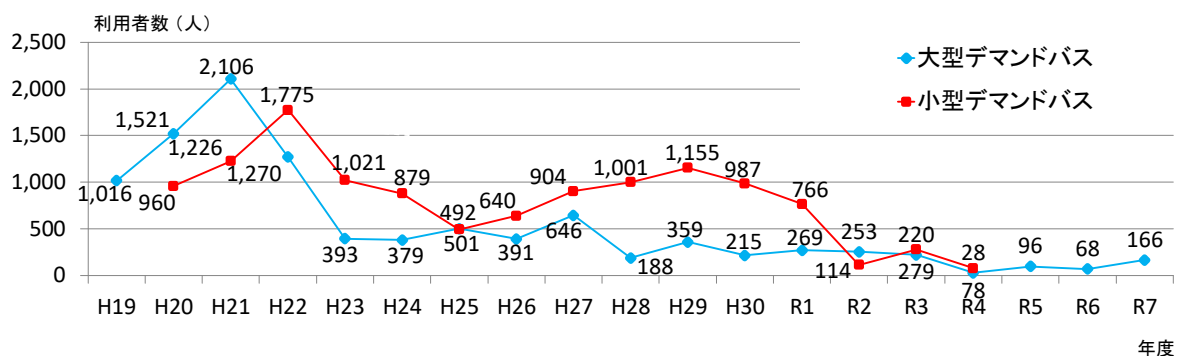


【令和7年度 らん♡らんバス年間利用者内訳】

利用者区分	令和7年度	(参考) 令和6年度
一般	46,025 人	44,621 人
一般(定期券)	34,870 人	36,423 人
障がい者	7,176 人	7,967 人
65歳以上	55,445 人	66,845 人
中高生	839 人	1,004 人
小学生以下	40,811 人	43,055 人
合計	185,166 人	199,915 人



【デマンドバス年間利用者の推移】

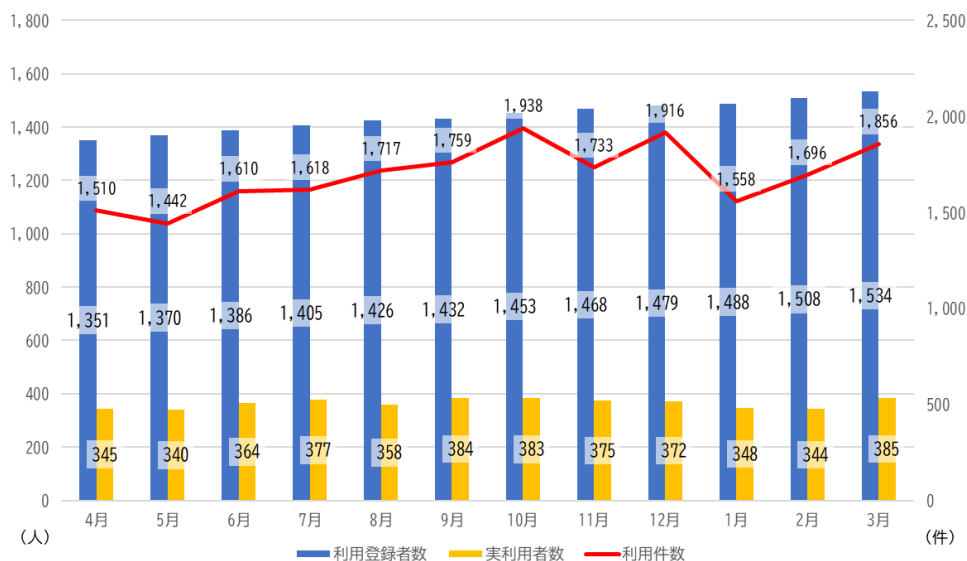


※大型デマンドバスは平成19年6月～運行開始し、令和8年3月末で運行廃止。

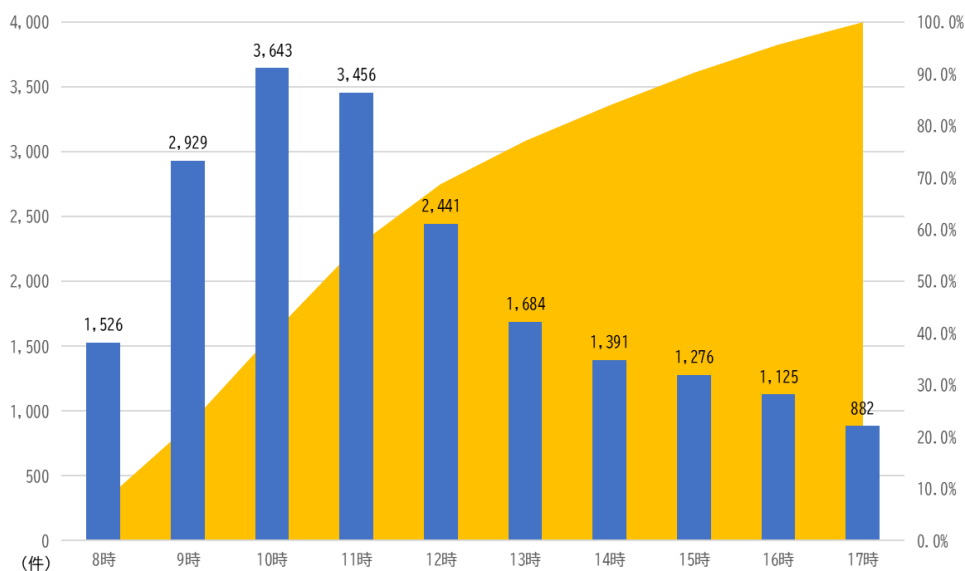
※小型デマンドバスは平成20年7月～運行開始し、令和4年9月末で運行廃止。

令和 7 年度 小野市デマンドタクシー「らん♡らんタクシー」利用状況

【利用登録者数、実利用者数、利用件数の推移】



【乗車時間別利用状況（令和 7 年4月～令和 8 年3月）】



【らん♡らんタクシーの乗降地別利用実績（令和 7 年4月～令和 8 年3月）】

